

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2393600057		
法人名	有限会社 エーエスマディカル		
事業所名	グループホーム えんなり		
所在地	愛知県江南市上奈良町天王252		
自己評価作成日	平成26年3月14日	評価結果市町村受理日	平成26年8月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kainokensaku.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kiban=true&livingsvcCd=2393600057-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社ユニバーサルリンク		
所在地	〒463-0035 愛知県名古屋守山区森孝3-1010		
訪問調査日	平成26年3月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループ内に医療機関があることで、日々の体調の変化や、体調急変時に柔軟に対応ができることで、ご利用者様、ご家族様に安心して過ごして頂ける。
また、グループホームでの対応が難しくなった場合の受け入れ先としても、グループ内での連携により対応させて頂くことが可能。ご家族様の負担軽減に協力できる。
また、調理部分を施設内厨房で給食委託業者に依頼することで、管理栄養士の監督のもと、毎日の栄養管理面についても安心して頂ける。施設屋上に入居者の方専用の屋上庭園、施設内1Fにフィットネスルーム、喫茶スペース、娯楽スペースもあり、運動不足の解消、気分転換、趣味活動の継続等にご活用頂ける。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

母体は地域に根差した病院であり、近隣にも多様な介護施設を展開する法人である。すぐ近くに母体病院があり、家族も入居の判断基準に「母体が病院だから、いざというときも安心」が考慮され、常時医療行為が必要となっても、完全なバックアップ体制により、特に看取りの要望もない。開所から二年以上が経ち、職員も落ち着いてきた現状を見て、「現状に満足しない」理念の実践として、4月から地域との交流・市町村との連携強化を管理者は目指している。その意気込みは職員にも伝わっており、聞き取りでも「四月から」「今年は」と『何かを始めよう』という気迫が感じられた。入り口である一階のデイサービスはシティホテルのフロントかと思ふほどの設備であり、30人ほどが喫茶を楽しめるコーナーもある。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	十分にはできていない	ホーム独自の理念はまだできていない。運営規定で定めた「現状に満足せず、新たな理想の追求とその実現のできる施設」「利用者・家族・地域・社会から求められるホームづくり」を理念として実践している。開所から二年経過し、職員の衆知を集めてホーム独自の理念を策定中である。	地域に求められ、ホームが有する「介護・認知症のプロ」としての資源で地域に貢献できる理念づくりに期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的な交流は持っていない	開所のバタバタも落ち着き、ようやく外へも目が配れるようになったと管理者は語る。その結果地域との連携・地域への貢献ができていないと痛感している。一階のデイサービスラウンジでの毎月のコンサートは、家族を介して地域にも参加を呼び掛けている。母体のグループ主催の夏祭りには4～500枚の招待券を配布し、入居者家族も参加した。	運営方針に定める、「地域社会に貢献できるホーム」づくりのための理念策定とともに、職員の衆知を集め、地域に浸透し、ホーム資源を地域に還元できるように近所との交流の取り組みに期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて、症状や対応についての話をすることはあるが、地域の方に向けての実施はできていない		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	できている	市職員・区長・地域包括センター職員・民生委員・家族・職員をメンバーとして隔月に開催されているが、11月だけメンバーの都合がつかず流会となってしまった。コンサートを広報したいとの要望に区長からは「回覧板や市公報への掲載もできる」と提言されている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	必要に応じ連絡・相談等の連絡を取っている。市の開催する管理者の会議に参加し情報収集を行っている	市が開催する、市内のグループホーム管理者の会議に参加し、情報を得ている。地域包括センター主催の連絡会には、市内グループホーム代表者が参加し地域包括センター主催の活動等が各ホームに伝達されている。	運営推進会議以外には特に市町村との連携はない。「この四月から地域・市町村との関係強化に力を入れる」と管理者は意気込む。保険者である市町村とのより強固な関係作りを期待したい。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の実績はないが、理解を深めるための勉強会などの機会が不足している	「今まで実例がなく、勉強会も実施できていない」と管理者が自己評価するように、『スピーチロック』の理解等徹底できていない面もある。ホームは三階に存在するため、開所時から常時オートロックされており、それが家族の安心を保証しているという事実がある。オートロックは非常時には全開されるようになっている。	「指定基準に定める禁止行為」を今一度職員全員で確認し、施錠しなければ安全が確保できないのか、再考に期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員それぞれが虐待防止について気を付けながら日々の業務につけているが、学ぶ機会が設けられていない		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学ぶ機会の確保ができていない		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	できている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議にて頂いたご意見について、職員へ伝え、可能な限り実践している	家族会はないが、4月から開催を検討している。運営推進会議には必ず家族が参加している。毎月の家族への報告書では、行事の時の笑顔とともに、食事・排泄・入浴・移乗につき、毎月「全解除・一部介助・自立」とモニタリング結果が詳細に報告されている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回ユニット会議を設け、問題点の解決について職員からの意見を業務に反映させている	入居者の行動で気付いたことがあれば日報で詳細に報告されている。その情報に対し管理者から、改善案、経過観察の指示、注意事項の指示が全職員に回覧されている。職員の中には、事実の記載だけでなく、原因を洞察し、その回避策までを提案できる職員もおり、管理者は頼もしく思っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に2回の人事考課を行い、評価をもとに昇給等の実施を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修案内などを掲示板に貼りだし、希望者の受講を促している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	できていない		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	新規で入居された方については、既存の方以上に配慮を行い、一日でも早くご自身の居場所を見つけ、他利用者職員との関係作りができるよう対応している		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前のご家族の意向確認と、入居後の本人の様子の報告など、入居直後は特に配慮して行っている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	十分ではない。依頼があった段階で、お受けする前提でお話をしている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	身の周りの事等、できる範囲をご自身に依頼し、共同生活を認識して頂けるよう対応している		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	必要時の受診対応の同行や、本人の様子を見ての面会依頼等を行い、協力して頂いている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会については制限をせず、自由な面会の場を設けているが、馴染みの場所へ出向くといった援助ができていない	入居者は地域の人は少なく、江南市全般から集まっている。家族が昔の友人をホームまで連れてくる人も、2~3人ある。一階のラウンジでの面会も好評である。帰宅願望の強い入居者には、散歩をして気を紛らわせているが、家族に了解を得て、一度帰宅を実現させたいと思っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立しないよう配慮については行っているが、入居者同士のトラブルについてすべてを防ぐという事は行っていない		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居者(入院のため)の家族と連絡を取り、退院後の意向の確認を行い、希望に応じてグループ内の連携により受け入れ先の準備を行っている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	可能な限り行っているが、十分には実施できていない	入居者全員の介護度は高くはなく、意思の表明も問題ない。母体は地域に根差した病院であるが、家族の要望があれば、提携医以外のかかりつけ医受診にも同行している。外出・散歩などの入居者への要望も、近所のホームセンターへの買い出しに同行したり、穏やかな季節には弁当持参で外出したりしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人一人と向き合う時間を大切に、本人様との会話の中から出てくる言葉から把握するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	十分ではないが努力している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	現場職員からの意見をもとに、介護計画を作成し実践している	日報には日々の気づきが記載され、その事項に対して、「報告・相談・要改善」のレベル分けがチェックされ、管理者からは、対策・改善案が提示され職員間で回覧されている。一階のデイサービスにはトレーニング機器が完備され、職員の提案で利用者のいない日曜日にトレーニングする入居者もいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気づきや様子について記録に残しているが、それを十分に計画に反映させることができていない。気づきや問題点として挙げられ、情報として共有していてもそれについての十分な話し合いができていない		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	取り組んではいるが十分ではない		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	できていない		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主にご家族の意向を確認し、入居前の主治医の継続、グループ内の病院への変更を支援している。その他の病院へかかれる際も必要に応じて職員対応での受診支援を行っている	馴染みの主治医を継続する入居者や、ホーム提携医に変更する入居者がいる。家族に代わって受診に付き添うこともあり、結果については口頭で報告し安心して適切な医療を受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	グループホーム配属の看護師はいないが、必要時には施設内の看護職員が状態観察を行い、受診の必要性の判断を行っている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	できている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	できていない	継続的な医療が必要になった場合や終末期については、契約時に本人や家族と今後の支援の方向性を話し合っている。グループ内に病院や施設が充実しており、入居者や家族の安心につながっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	できているが、定期的な訓練は実施できていない		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練の実施や避難経路の確認等を行っているが、地域との連携が不十分	消火器、スプリンクラーが設置されている。年に2回、消防署の協力のもと昼間を想定し避難経路の確認、屋上庭園への避難訓練、消火器使用の研修をしている。地域との協力体制は取り組む努力を重ねている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	馴染みの関係にはなれてきているが、馴れ合いの関係にもなりつつある部分もあり、言葉遣いに注意を促している	声の大きさや言葉使いについて、管理者との面談やミーティング時に常に確認している。訪問時に職員の入居者に対して誇りやプライバシーを損ねないような声かけや誘導の様子が見られた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定の促しを行い、可能な限り本人の意向に即した対応を心がけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたか、希望にそって支援している	十分にはできていない		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣の際の服選びから意向を確認し、季節に応じた服装の中で本人の意向を尊重している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	栄養バランスを考えた食事を、手分けして盛り付けを行っていただき、食事前に献立の確認を実施。食事後の片づけも手分けして行っている	入居者の好みや食事形態は食事箋で厨房に伝達している。お好み焼きや鍋、屋上庭園での流しそうめんを楽しむこともある。今後は副菜の1品をホームのキッチンで入居者と一緒に調理する方向で検討している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食ごとの食事量の記録と定時の水分補給を行っている。好みに応じ、厨房と調整しながら提供する食事を変更している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	できている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	できている	現場職員の気づきや排泄チェック表でリズムをつかみ、時間を決めて声かけや誘導をしている。その結果、夜間の失禁がなくなったり布パンツ+パットに変更できた事例も多数ある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	できている。排便の間隔を記録し、確認が取れていない時は腹部の張りの確認などを実施。受診時のドクターへの報告や、ご家族への整腸剤等の依頼も行っている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	1週間での入浴実施回数は決めてしまっているが、入浴日や時間帯については本人の意向を確認した対応を心がけている	週3回、の入浴が基本であるが決して無理強いはいらない。夏場はシャワー浴や清拭の援助をしている。柚子湯、菖蒲湯など季節の湯も楽しむことができる。重度者の介助には、グループ内1Fでの特殊浴槽を利用し安全に対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	できている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	できている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	十分ではないができている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	十分ではないができている	ホームの2周年記念イベントとして入居者全員参加で伊勢神宮へ出かけた。季節や体調を考慮し、ホーム周辺の散歩に出かけることもある。入居者の希望する日用品を買い物に出かける個別支援も行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	日常の保管は職員が行っているが、外出先での買い物などは本人の意向で行っている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族側の負担につながらないように配慮しつつ、行っている。電話の使用や手紙等のやり取りについての制限はしていない		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	できている	華美な飾りがなく間接照明もあり落ち着いた雰囲気が漂っている。壁面には誕生日会の写真や習字が掲示してある。ゆとりある間取りで心地よい音楽が流れ、静かでのんびりとした時間を作っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	できている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	できている	居室の温度は入居者個々の希望にそって職員により調節されている。家族に協力を依頼し、使い慣れた家具や備品を持ち込んでいる。チェストの上には作品や写真が飾られ、来訪者との話題作りや良き思い出となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	十分ではないができている		